

＝ 10 年間の新しい重要な個別事業計画の紹介（その1）＝ 公営住宅等長寿命化計画・橋梁長寿命化修繕計画



余別団地（平成元年建設）

町では、道路や橋梁・公営住宅等の町民生活に身近な社会資本施設の維持管理を行っています。しかし、全国的に厳しい地方の財政状況下では、これら老朽化が進んでいる施設の効率的かつ円滑な更新を行うことは極めて難しい実情にあります。

国では、今後、これら社会資本施設全般について、一度に多額の費用をかけずに長寿命化を図ることでライフサイクルコスト※1の縮減に繋げていくため、早期の点検管理や予防的な修繕改修により更新コストの削減を目指すこととしており、市町村が策定する「長寿命化計画」と同計画に基づく「長寿命化対策」への財政支援措置を講じ始めました。

町では、平成 23 年度に、橋梁及び公営住宅それぞれ 10 年間の長寿命化修繕計画（平成 24 年度～ 33 年度）を策定し、平成 25 年度から同計画に基づく事業（工事）をスタートすることになりましたので、その概要をお知らせします。

※1 構造物などの費用を、調達から使用、廃棄の段階をトータルして考えたもの。（生涯費用）

公営住宅等長寿命化計画

■公営住宅の現状と入居者の特徴

現在、町内の公営住宅は、7 団地 18 棟、107 戸あります。そのうち、既に耐用年数を経過しているものは 6 棟 21 戸、耐用年数の 1/2 を経過しているものが 7 棟 26 戸と、全戸数のうち約 44% の割合を占めており、老朽化が進んでいます。

同計画策定時点で公営住宅入居率は 97.2%、1 人・2 人世帯が全体の 63% を占めており、また、65 歳以上の高齢者がいる世帯は、全体の 36.5% で、そのうち 73.7% が単身世帯となっていますが、住宅内の段差解消や手すりの設置等の高齢者対応されている団地は美国団地のみとなっているのが現状です。

■将来の公営住宅管理戸数

積丹町では、将来の人口・世帯数共に減少傾向が想定されており、公表されている 10 年後（平成 33 年）の将来人口推計（1,885 人）に基づき算定すると、平成 33 年度に必要となる公営住宅数の見込みは約 80 世帯です。

一方、当町では、公営住宅（借家）に対する需要や、今後さらに高齢者単身世帯が増加する傾向にあることから、これらを勘案し、同計画最終年度の平成 33 年度の公営住宅管理戸数を 100 世帯程度と設定しました。

■長寿命化修繕計画の内容

同計画では、トイレの水洗化、ユニットバスの設置、高齢者対応などを行う「個別改善事業」や外壁と屋根の改修を行う「長寿命化型改善」を、それぞれの住宅団地毎の状況に応じて実施し、安心・快適に暮らせる住環境の整備と維持管理費の削減や、建物の長期利用が可能となることによるライフサイクルコスト※1の縮減効果の発揮をめざしています。

〔10 年間計画事業費約 361 百万円〕

各公営住宅の概要

（平成 24 年 2 月末現在）

団地名	戸数（戸）	建設年度	耐用年数	経過耐用年数
多茂木団地	15	S49	30 年	7 年経過
小泊団地	16	S59 ～ 63	45 年	1/2 経過 残り 18 ～ 22 年
美国団地	60	H7 ～ 14	70 年	未経過 残り 54 ～ 60 年
入舸団地	4	S58	45 年	1/2 経過 残り 17 年
野塚団地	6	S50	30 年	6 年経過
日司団地	4	S57	30 年	1/2 経過 残り 1 年
余別団地	2	H1	30 年	1/2 経過 残り 8 年
合計	107			

平成 33 年度までの事業量の目安

計 画 区 分	現況管理戸数	107 戸
	目標管理戸数 （平成 33 年度）	100 戸
	建 設	8 戸程度を予定
	個別改善及び 長寿命化型改善	26 戸 （小泊・入舸・日司・余別団地）
	長寿命化改善	60 戸（美国団地）
分	維 持 管 理	6 戸（野塚団地）
	用 途 廃 止	15 戸（多茂木団地）

橋梁長寿命化修繕計画

■橋梁の現状

現在、町が管理する道路橋 34 橋のうち、将来的な利用状況や国の指針に基づく木橋（2 橋）及び 2.0 m 未満（2 橋）の 4 橋については計画の対象外とし、残りの 30 橋について修繕を前提とする計画策定を行いました。

30 橋のうち、建設後 50 年が経過した橋梁は、現在 1 橋にとどまっていますが、20 年後には全体の 16 橋（53.3%）、30 年後には 27 橋（90%）と、今後急速に橋梁の高齢化が進行します。

各橋の損傷状況を把握は、平成 21 年度の一斉点検に基づき、現状を 5 段階で評価した結果、損傷が著しく安全確保が支障となる恐れがある健全度 1 の判定が 2 橋、補修補強の要否の検討を行う必要となる健全度 2 の判定が 6 橋と、全体の約 3 割の橋梁が改修を必要としています。

■長寿命化修繕計画

今後 60 年間に於ける橋梁保全・更新に係る費用を試算した結果、改修が必要となってから「大規模補修・更新」を行った場合の費用約 24 億円に対して、予防的な対応を行う修繕では約 50%（約 12 億円）のコスト縮減効果があると試算されました。このため、同計画に基づき予防保全的な修繕を進め、今後全橋梁の定期的な点検を 5 年程度の周期で行います。

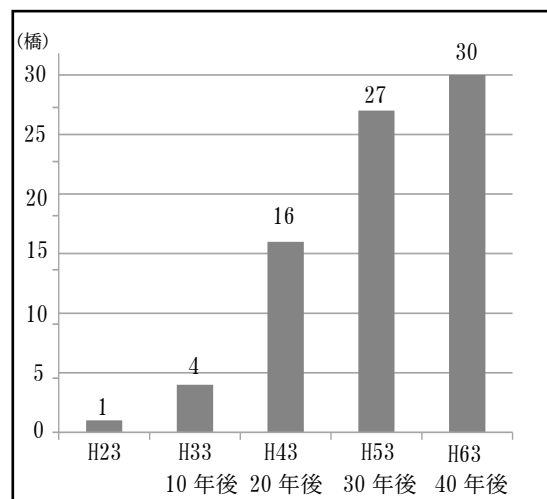
また、橋の重要度や町の財政状況を勘案し、修繕計画の見直しを行いながら、地域道路網の安全性・信頼性の確保をめざすこととしています。

〔10 年間の計画事業費
約 158 百万円〕

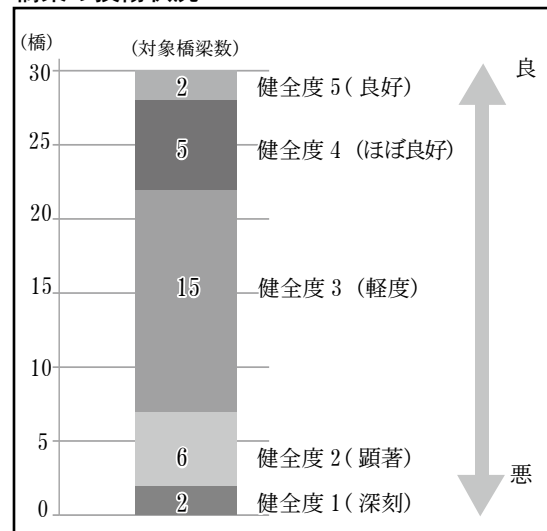


▲新美国橋（昭和 62 年建設）

建設後 50 年以上経過橋梁数の推移（全 30 橋）



橋梁の損傷状況



— 美国川河川改修事業 —

いよいよ“護岸工事”に着手

北海道（小樽建設管理部）が

計画している美国川河川改修事業の、河川護岸の工事が着工し、長年の懸案解消のための治水防災対策の一部が始まりました。

昭和 37 年の大災害や平成 10 年の豪雨増水の恐怖から、町民の生命・財産・生活を守る目的で進められてきた同計画は、平成 12 年から事業に着手し、平成 21 年度からは工事の前提となる建物等の移転補償が実施され、平成 24 年度までに約 9 億円の事業費を投入し、用地測量や物件調査などが行われています。これまでに 16 件の物件補償による移転又は取り壊しが進んだことから、本格的な工事の着工が待たれていたところです。

日まどとなっています。

同計画事業では、美国橋上流部の一部では、相続調査が困難で権利抹消の手続きに時間を要している状況もありますが、美国橋より下流部では 26 年度までに物件補償、移転などの手続きが完了する見込みとなっており、このたびの工事着工により、25 年度以降の本格的な治水防災工事促進への期待が寄せられるところです。

このたび着工した工事は、美国臨港道路に架かる黄金大橋に隣接する上流部の古平町側の河川敷地内の土砂の掘削を行い、護岸（法枠ブロック）37メートルを整備するもので、事業費は 1,900 万円、工期は 3 月 21



護岸（法枠ブロック）工事の様子